

2017年度 授業評価アンケート報告書

関西学院大学経営戦略研究科

本報告書の概要

本報告書は、関西学院大学経営戦略研究科において 2017 年度に開講された授業についての学生及び教員による評価アンケート結果をまとめたものである。授業評価アンケートを実施した授業科目は、原則的に 2017 年度に開講された 340 講義である。2017 年度の授業評価アンケート調査実施対象授業科目の履修登録者数は 3,264 人（延べ人数、以下同じ）で、実際にアンケート調査を回答した者は 2,942 人であり、アンケート調査の回答率は 90.09% であった。

学生による評価アンケートは、設問 1 から設問 9 が「教員の授業内容と方法」について、設問 10 と設問 11 が「学生自身の取り組み」について、設問 12 から設問 14 が「授業の満足度」についての質問となっており、いずれの設問も 5 段階評価で回答することとなっている。

今回の学生によるアンケート結果からは、経営戦略研究科の学生の、授業に対する満足度に関する評価は概ね高い水準を維持している。設問 13 の「この授業は全般的に満足のものでしたか。」のスコアは、通年で 4.45、春学期が 4.45、秋学期が 4.52 であり、十分に高い水準であると考えられる。設問の中で最も高いスコアだったのは、設問 3 の「教員は、担当科目の授業を行うのに十分な専門知識を持っていましたか」で、2017 年度も通年で 4.79 と高い水準を保っている。つまり、担当教員が授業を行うための専門知識に関しては、学生から高く評価されていると考えられる。

他方、以前から継続して見られることであるが、学生自身の取り組みについての問いである設問 10 の「この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか」および設問 11 の「この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか」のスコアは、教員の授業内容や方法、授業の満足度についての設問のスコア（設問 1～9、設問 12～14）に比較して低い状況が続いており、授業外での課題設定を充実させる工夫が必要となる。

経営戦略研究科所属教員による担当科目の自己評価については、コア、ベーシック、アドバンスト、課題研究の 4 つの科目群に分けて考察した。「最も力を入れたこと」としては、コア科目群では、基本的な理論・フレームワークを習得することに力点が置かれ、また、ビジネスに直結して応用させることが意識されていた。ベーシック科目群については、コア科目にはない新しい専門分野の科目ではコア科目群と同様に「基礎的な知識を体系だてる」など基礎的な概念や理論の理解を挙げる教員が多く、それ以外の科目ではコア科目の発展的な内容を意識したものが多く、より実践に結び付けようとしていた。アドバンスト科目群で発展的な科目という性質から、その内容は多岐にわたっていた。課題研究科目群では、課題研究基礎では「課題研究論文の進め方を理解させること」が多く、課題研究

では研究内容の充実とスムーズな進め方が挙げられていた。

「実施してよかった点」については、コア科目群では小テストやレポート、演習問題や実習による理解度の向上と、グループ討議やグループ研究発表などの学生間の対話および学生と教員間の双方向授業を挙げるものが多かった。ベーシック科目群では双方向授業の工夫と基礎知識を身近に理解することとそこからの応用を強化する工夫、授業前の学習を促す工夫が挙げられていた。アドバンスト科目群では、グループワーク、ケース・スタディ、教員作成のケースを用いた講義・ディスカッション、毎回の小テストとその解説、毎回課すレポートとそのうちの優れたレポートの紹介、グループ研究発表、授業内容を再度理解できるような宿題を課す、など、ベーシック科目でも見られた工夫のほか、最新事例の紹介、受講生によるプロジェクト報告、自社の分析を課すこと、ゲストスピーカーを招く、学んだことを自らの職場で試してレポートを課すなどが挙げられていた。課題研究科目群では、課題研究基礎では「ミニ課題研究論文」として、論文形式のレポートの提出を課すが多く、課題研究では早期から課題研究論文作成の準備や学生がレベル高い論文を書くためのモチベーションを上げる工夫が多く挙げられていた。

「改善・工夫をしたほうが良い点」については、課題研究科目群以外では共通していかに双方向授業や学生間の討議を活発にするか、学生の積極性を引き出すか、復習を促すか、など、常に改善のための試行錯誤をする姿が見られた。数字を扱う授業では受講者の理解度のばらつきに対する対応が挙げられていた。課題研究科目群ではいかに期間内に効率的に研究を遂行するかの工夫が挙げられていた。

「目標が達成されたか」については、「おおむね達成された」とする教員がいた一方で、「今年は何々をしてみた」など毎年工夫を重ねている教員は多い。今後も教員間で改善点や工夫点を共有して、また、個々の学生による授業評価アンケートの結果に基づいて改善を重ねる努力をしていきたいものである。

1. 授業評価の目的

学校教育法の改正により、大学・大学院において第三者評価が義務づけられ、専門職大学院においては5年に1回の第三者による認証評価を受けることが求められている。大学・大学院に対する第三者評価制度の導入は、自己点検・評価とともに教育研究水準の継続的な向上を目的としたものである。また、本経営戦略研究科は、教員の資質維持向上の方策のひとつとして、「授業内容及び方法の改善を図るための組織的な研修等の実施」に取り組んでいる。

本研究科では、授業内容および授業方法の改善を図るため、各クォーターの最終授業時に、学生による授業に関するアンケートと教員の担当科目自己評価を実施することとしている。授業評価の目的は、本研究科学生の実態や現状、学生の授業に対する認識・反応などをアンケートから探り、その結果を分析することによって、教育の現場に反映させる基礎資料を作成し、ビジネススクールおよびアカウンティングスクール教育の質的向上を図るとともに、ビジネススクールおよびアカウンティングスクール教育固有の教学上の諸課題を把握し、解明することにある。ここで注目したいのは、この学生アンケートと並んで、授業担当者自身の授業についての自己評価を学生の評価に合わせて実施していることである。これは、学生のアンケート結果と同時に実施されており、各教員は学生の授業評価結果を見ない段階で授業を振り返ってアンケートの記入を行った。このような試みは、学生の評価と対照することでより良い授業のヒントが得られるものと思われる。

本報告書は、本経営戦略研究科において2017年度に開講した授業についての評価アンケート結果をまとめたものである。本報告書の構成は、エグゼクティブサマリー、2017年度授業評価アンケート結果概要・分析、授業評価アンケート実施科目一覧、授業評価アンケートフォーム、授業別評定平均値一覧、アンケート結果（アンケート授業別集計結果）およびグループ・インタビュー調査結果からなっている。

授業評価に関する調査の企画、調査票の作成、および集計結果についての分析と本報告書の執筆については、本研究科教授会のもとに設置された「経営戦略研究科自己評価委員会」のメンバーを中心として行われた。

調査の実施の方法等についての詳細は、以下の「調査実施方法及び期間等」のとおりである。今回の調査では、ほぼすべての授業科目および学生からの回答が得られた。アンケート実施に当たって、貴重な授業時間を割いていただいた各教員に感謝申し上げます。また、実際に回答を寄せていただいた学生諸君に深く謝意を表す。

2. 調査実施方法及び期間等

授業内容については、春学期（第1クォーター、第2クォーター、夏季集中）・秋学期（第3クォーター、第4クォーター、冬季集中）の授業終了時に受講生による授業評価を実施している。本報告の対象となる授業評価アンケートの実施方法や実施期間等については、以下のとおりである。

（1）実施対象授業科目について

授業評価アンケートを実施した授業科目は、原則的に2017年度に開講されたすべての講義である。本研究科全体でみた場合、アンケート実施対象科目（複数クラス開講分を含む。ただし、調査回答が全て白紙または未提出の科目（2017年度は2講義 各履修者数1名・1名が該当）は含めない）は、340講義（春学期168講義、秋学期172講義）である。その内訳は、経営戦略専攻が211講義（企業経営戦略コース140講義、および国際経営コース71講義）、会計専門職専攻が129講義であった。

（2）回答者、回答率等について

2017年度の授業評価アンケート調査実施対象授業科目の履修登録者数は3,264人（延べ人数、以下同じ）で、そのうち、春学期が1,680人、秋学期が1,584人であった。また、実際にアンケート調査を回答した者は2,942人（春学期1,539人、秋学期1,403人）であり、アンケート調査の回答率は90.09%（春学期91.61%、秋学期88.57%）であった。

各専攻別の内訳は次のとおりである。経営戦略専攻の授業科目の履修登録者数は2,487人（企業経営戦略コース1,902人および国際経営コース585人）で、そのうち、春学期は1,303人（企業経営戦略コース998人および国際経営コース305人）、秋学期は1,184人（企業経営戦略コース904人および国際経営コース280人）であった。アンケート調査の回答者数については、2,252人（企業経営戦略コース1,704人および国際経営コース548人）であった。そのうち、春学期は1,202人（企業経営戦略コース909人および国際経営コース293人）、秋学期は1,050人（企業経営戦略コース795人および国際経営コース255人）であった。回答率は91.7%（企業経営戦略コース89.6%および国際経営コース93.7%）である。そのうち、春学期は93.6%（企業経営戦略コース91.1%および国際経営コース96.1%）、秋学期は89.5%（企業経営戦略コース87.9%および国際経営コース91.1%）であった。

また、会計専門職専攻の授業科目の履修登録者数は777人（春学期377人、秋学期400人）で、アンケート調査の回答者数は690人（春学期337人、秋学期353人）あり、その回答率は88.9%（春学期89.4%、秋学期88.3%）であった。

(3) 実施期間について

授業評価は、春学期、秋学期の授業終了時に実施してきた。2017年度の授業評価アンケートの実施期間だが、各クォーター開講科目については、原則として下記期間の7週目授業時に実施した。ただし、補講を実施した科目については、翌週の最終授業時に実施した。また、各集中講義開講科目については、下記期間の最終授業時に実施した。

第1クォーター開講科目：2017年5月21日（日）～5月27日（土）

第2クォーター開講科目：2017年7月16日（日）～7月22日（土）

夏季集中講義開講科目：2017年7月30日（日）～8月23日（水）

第3クォーター開講科目：2017年11月2日（木）～11月11日（土）

第4クォーター開講科目：2018年1月14日（日）～1月22日（月）

冬季集中講義開講科目：2018年1月28日（日）～2月28日（水）

(4) アンケートの実施について

授業評価アンケートは、次の手順で実施した。

- ①授業評価アンケート時間は、最終授業時の授業終了前15分間とする。
- ②最終授業開始前に、授業評価アンケート用紙の入った封筒を、経営戦略研究科事務室にて担当者氏名と担当科目を確認のうえ受け取る。
- ③最終授業開始時に、「授業終了15分前に授業を終了し、授業評価アンケートを実施する」旨を受講者に伝える。
- ④授業終了15分前に、授業担当者は授業評価アンケート用紙を受講生に配布し、その場で直ちに回答するよう指示する。当該用紙の配布および回答の指示後、学生の自由な回答・記入を促進するため、授業担当者は教室から退室する。
- ⑤学生による授業評価である「授業に関するアンケート」は、質問項目数14～15で最高ポイントを5とし、それぞれ5段階評価のマークシートである。
- ⑥授業終了後、授業担当者は教室に戻って授業評価アンケート用紙を回収し、所定の封筒に入れて事務室に返却する。なお、受講者の自由な回答を促進するためにも、授業担当者は、授業評価アンケート用紙の回収時および回収後も当該アンケートは閲覧しない。
- ⑦「教員の担当科目自己評価表」については、事前に電子メールにて配布され、該当科目の成績報告書提出締切日までに経営戦略研究科事務室に提出（eメール可）した。
- ⑧「教員の担当科目自己評価表」は、次のような自由記述形式の3つの設問からなっている。
 1. 「この科目を担当するにあたって最も力を入れたことは何ですか。」

2. 「この科目において、実施してよかった点と改善・工夫をした方がよい点は何ですか。クラスで実施した小テストやレポートの内容、発問に対する学生の答え、学生の教員への質問などから総合してお答えください。(1) 実施してよかった点、(2)改善・工夫をした方がよい点」
3. 「この科目を担当するにあたって当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、ご自身の思っていた目標は達成されたと思いますか。」

(5) 集計

2017年度の授業評価アンケートについては、実施授業科目のクラスごとに集計を行った。この「授業評価アンケート集計結果」は、各授業クラスの履修登録者数、回答者数（学年別、所属専攻別、出身学部別の回答者数）、各設問の有効回答数、有効回答数の平均値および専攻平均値が示される。このうち、各設問の有効回答数の平均値と専攻平均値は、グラフによって視覚的にも明示している。

授業評価アンケートには、自由記述に関する設問が3問ある（「この授業で良かったところを具体的に書いてください」、「この授業で変えてほしいところがあれば、具体的に書いてください」および「この授業に関して気づいたことがあれば書いてください」）。学生による授業評価アンケート実施にあたっての基本的スタンスとして踏襲してきたように、この自由記述の回答内容については公表対象とせず、授業内容および方法の改善のための資料と資する目的から、授業担当者に配付している。

3. 経営戦略専攻・企業経営戦略コース

A. 学生による授業評価アンケート

(1) 概観

以下では、2017年度の授業評価アンケートの結果を、全科目群、コア科目群、ベーシック科目群、アドバンスト科目群ごとに、同じ調査票が使用されている2009年度以降の結果と比較して分析していく。表1から表4は、全科目群、コア科目群、ベーシック科目群、アドバンスト科目群ごとに、回答の平均値（小数点第三位で四捨五入）を、春学期、秋学期、通年別に示したものである（年度の一番下にある「平均」は2009年度から2017年度の数字を平均したものである）。

2017年度の全科目群（表1）の評価であるが、春学期、秋学期、通年とも、学生からの評価の水準は、概ね高い水準を維持している。授業への満足度を問う設問13の「この授業は全般的に満足いくものでしたか。」のスコアは、通年で4.43、春学期が4.37、秋学期が4.51であり、十分に高い水準であると考えられる。設問の中で最も高いスコアだったのは、設問3の「教員は、担当科目の授業を行うのに十分な専門知識を持っていましたか」で、2017年度も通年で4.79と高い水準を保っている。担当教員が授業を行うための専門知識に関しては、学生から高く評価されていると考えられる。他方、以前から継続して見られることであるが、学生自身の取り組みについての問いである設問10の「この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか」および設問11の「この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか」のスコアは、教員の授業内容や方法、授業の満足度についての設問のスコア（設問1～9、設問12～14）に比較して低い状況が続いており、授業外での課題設定を充実させる工夫が必要となろう。

表1：全科目群（回答の平均値）

春学期

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.51	4.58	4.67	4.31	4.35	4.14	4.18	4.13	4.49	3.97	3.91	4.10	4.33	4.19
2010	4.59	4.59	4.73	4.45	4.48	4.23	4.27	4.28	4.57	4.03	3.88	4.15	4.39	4.24
2011	4.54	4.59	4.73	4.36	4.51	4.15	4.12	4.17	4.51	4.04	3.88	4.07	4.32	4.26
2012	4.38	4.47	4.67	4.30	4.42	4.10	4.19	4.12	4.47	3.97	3.73	4.01	4.23	4.32
2013	4.55	4.57	4.71	4.36	4.45	4.13	4.19	4.14	4.50	3.99	3.83	4.08	4.31	4.39
2014	4.57	4.57	4.74	4.42	4.48	4.23	4.32	4.22	4.57	4.06	3.87	4.13	4.40	4.46
2015	4.59	4.62	4.74	4.46	4.54	4.29	4.35	4.32	4.60	4.02	3.86	4.16	4.44	4.51

2016	4.55	4.63	4.73	4.41	4.47	4.23	4.33	4.22	4.53	4.03	3.82	4.16	4.39	4.46
2017	4.60	4.61	4.76	4.42	4.48	4.19	4.31	4.18	4.57	4.02	3.88	4.12	4.37	4.46
平均	4.54	4.58	4.72	4.39	4.46	4.19	4.25	4.20	4.53	4.01	3.85	4.11	4.35	4.37

秋学期

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.58	4.57	4.71	4.43	4.39	4.20	4.28	4.32	4.54	4.03	4.01	4.15	4.39	4.30
2010	4.66	4.64	4.71	4.51	4.52	4.30	4.38	4.34	4.58	4.14	4.04	4.24	4.40	4.34
2011	4.56	4.58	4.71	4.42	4.46	4.27	4.27	4.27	4.59	4.00	3.92	4.17	4.40	4.27
2012	4.50	4.58	4.68	4.38	4.43	4.16	4.21	4.22	4.49	4.02	3.87	4.06	4.27	4.35
2013	4.46	4.49	4.61	4.31	4.37	4.12	4.21	4.16	4.49	4.00	3.94	4.04	4.26	4.32
2014	4.61	4.63	4.74	4.49	4.54	4.33	4.37	4.29	4.60	4.13	4.00	4.20	4.43	4.52
2015	4.62	4.66	4.75	4.49	4.57	4.37	4.38	4.36	4.64	4.08	3.98	4.25	4.46	4.50
2016	4.63	4.67	4.80	4.51	4.46	4.28	4.36	4.28	4.59	4.02	3.88	4.18	4.49	4.54
2017	4.66	4.72	4.82	4.53	4.53	4.37	4.36	4.33	4.64	4.09	3.97	4.25	4.51	4.57
平均	4.59	4.62	4.73	4.45	4.47	4.27	4.31	4.29	4.57	4.06	3.96	4.17	4.40	4.41

通年

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.54	4.57	4.69	4.37	4.37	4.17	4.23	4.22	4.51	4.00	3.95	4.12	4.36	4.25
2010	4.62	4.61	4.72	4.48	4.49	4.26	4.32	4.31	4.58	4.08	3.95	4.19	4.40	4.29
2011	4.55	4.58	4.72	4.38	4.49	4.20	4.19	4.22	4.55	4.03	3.90	4.12	4.36	4.27
2012	4.44	4.52	4.68	4.34	4.42	4.13	4.20	4.17	4.48	4.00	3.80	4.03	4.25	4.34
2013	4.51	4.53	4.66	4.34	4.41	4.13	4.19	4.15	4.50	4.00	3.88	4.06	4.29	4.36
2014	4.59	4.60	4.74	4.45	4.51	4.28	4.34	4.26	4.58	4.09	3.92	4.16	4.41	4.49
2015	4.60	4.63	4.74	4.48	4.55	4.33	4.37	4.34	4.62	4.05	3.91	4.20	4.45	4.50
2016	4.59	4.65	4.77	4.46	4.46	4.26	4.34	4.25	4.56	4.02	3.85	4.17	4.44	4.50
2017	4.63	4.66	4.79	4.47	4.50	4.28	4.33	4.25	4.60	4.05	3.92	4.18	4.43	4.51
平均	4.56	4.59	4.72	4.42	4.47	4.23	4.28	4.24	4.55	4.04	3.90	4.14	4.38	4.39

次に、コア科目群(表2)、ベーシック科目群(表3)、アドバンスト科目群(表4)のデータを分析する。コア科目については、14の設問中11問で昨年水準を上回っており、コ

ア科目に対する評価の改善が認められる。一方でベーシック科目については、春学期で 14 の設問中 9 問が、そして秋学期については 10 問で昨年水準を下回っている。絶対的な落ち幅はさほど大きくはないが、その原因をより深く調査することが必要となろう。最後にアドバンス科目は、通年レベルで全 14 の設問において昨年水準を上回っており、アドバンス科目の改善が進んでいることが見受けられる。

表 2：コア科目群（回答の平均値）

春学期

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.40	4.48	4.69	4.15	4.17	3.98	4.06	3.92	4.43	3.84	3.78	3.89	4.16	4.03
2010	4.46	4.42	4.59	4.39	4.18	3.96	4.10	3.92	4.39	3.93	3.79	3.86	4.10	3.98
2011	4.41	4.39	4.64	4.10	4.07	3.72	3.86	3.73	4.24	3.85	3.50	3.56	3.85	3.90
2012	4.01	4.12	4.47	3.87	4.06	3.57	3.78	3.69	4.19	3.71	3.32	3.47	3.63	3.80
2013	4.50	4.45	4.71	4.29	4.32	3.87	3.97	3.98	4.37	3.90	3.62	3.93	4.16	4.27
2014	4.49	4.52	4.80	4.44	4.32	4.11	4.20	4.10	4.50	4.04	3.66	4.00	4.30	4.40
2015	4.48	4.46	4.75	4.28	4.39	4.03	4.20	4.15	4.43	3.76	3.55	3.86	4.25	4.36
2016	4.43	4.57	4.70	4.29	4.27	4.15	4.25	4.07	4.37	3.92	3.63	4.01	4.23	4.33
2017	4.52	4.51	4.79	4.37	4.39	4.09	4.28	4.11	4.44	3.86	3.56	3.92	4.27	4.38
平均	4.41	4.44	4.68	4.24	4.24	3.94	4.08	3.96	4.37	3.87	3.60	3.83	4.11	4.16

秋学期

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.55	4.48	4.69	4.38	4.03	3.82	4.03	4.13	4.39	3.95	3.86	3.86	4.16	4.03
2010	4.72	4.68	4.78	4.52	4.25	4.10	4.35	4.34	4.57	4.20	3.96	4.10	4.29	4.15
2011	4.49	4.41	4.64	4.38	4.15	4.03	4.09	4.07	4.46	4.01	3.90	3.99	4.19	4.08
2012	4.08	4.13	4.35	3.78	3.84	3.59	3.84	3.82	4.08	3.66	3.38	3.57	3.65	3.80
2013	4.27	4.24	4.53	4.15	4.17	3.99	4.22	4.19	4.28	3.89	3.72	3.96	4.10	4.23
2014	4.50	4.55	4.75	4.40	4.29	4.14	4.24	4.15	4.49	4.03	3.72	3.97	4.21	4.33
2015	4.50	4.53	4.76	4.31	4.39	4.17	4.33	4.30	4.51	3.94	3.64	4.06	4.28	4.33
2016	4.39	4.47	4.73	4.32	4.01	4.02	4.23	4.22	4.24	3.74	3.58	3.90	4.25	4.27
2017	4.48	4.56	4.76	4.42	4.23	4.11	4.19	4.25	4.40	3.88	3.60	3.98	4.29	4.36
平均	4.44	4.45	4.67	4.30	4.15	4.00	4.17	4.16	4.38	3.92	3.71	3.93	4.16	4.18

通年

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.45	4.48	4.69	4.24	4.12	3.92	4.05	4.00	4.42	3.89	3.81	3.88	4.16	4.03
2010	4.58	4.54	4.68	4.45	4.21	4.03	4.21	4.11	4.47	4.05	3.87	3.97	4.19	4.06
2011	4.45	4.40	4.64	4.25	4.11	3.89	3.98	3.91	4.36	3.94	3.71	3.79	4.03	4.00
2012	4.04	4.12	4.42	3.83	3.98	3.58	3.81	3.74	4.15	3.69	3.34	3.51	3.64	3.80
2013	4.43	4.39	4.66	4.25	4.27	3.91	4.05	4.05	4.35	3.89	3.65	3.94	4.14	4.26
2014	4.50	4.53	4.78	4.42	4.31	4.12	4.22	4.12	4.49	4.04	3.69	3.99	4.26	4.37
2015	4.49	4.49	4.76	4.29	4.39	4.09	4.25	4.21	4.46	3.83	3.59	3.94	4.26	4.35
2016	4.41	4.51	4.71	4.31	4.14	4.08	4.24	4.15	4.30	3.83	3.60	3.95	4.24	4.30
2017	4.50	4.54	4.77	4.40	4.30	4.10	4.23	4.18	4.42	3.87	3.58	3.95	4.28	4.37
平均	4.43	4.44	4.68	4.27	4.20	3.97	4.12	4.05	4.38	3.89	3.65	3.88	4.13	4.17

表 3 : ベーシック科目群 (回答の平均値)

春学期

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.49	4.53	4.57	4.25	4.30	4.05	4.11	4.06	4.39	3.97	3.85	4.05	4.28	4.18
2010	4.61	4.60	4.78	4.45	4.54	4.22	4.23	4.28	4.60	4.04	3.82	4.17	4.41	4.21
2011	4.53	4.63	4.75	4.38	4.57	4.15	4.00	4.18	4.51	4.01	3.76	4.06	4.36	4.31
2012	4.38	4.55	4.72	4.38	4.47	4.16	4.18	4.16	4.45	3.98	3.65	4.08	4.32	4.41
2013	4.59	4.65	4.75	4.37	4.55	4.18	4.15	4.16	4.52	3.98	3.64	4.05	4.30	4.39
2014	4.55	4.51	4.68	4.31	4.47	4.10	4.27	4.12	4.49	3.99	3.73	4.00	4.30	4.37
2015	4.70	4.75	4.79	4.61	4.66	4.32	4.43	4.37	4.65	4.13	3.93	4.27	4.51	4.61
2016	4.53	4.62	4.71	4.40	4.54	4.18	4.34	4.22	4.54	3.98	3.76	4.12	4.40	4.47
2017	4.55	4.57	4.78	4.38	4.48	4.09	4.16	4.10	4.54	4.04	3.82	4.00	4.22	4.32
平均	4.55	4.60	4.73	4.39	4.51	4.16	4.21	4.18	4.52	4.01	3.77	4.09	4.34	4.36

秋学期

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.60	4.54	4.67	4.39	4.27	4.10	4.19	4.22	4.38	3.99	3.83	4.10	4.33	4.27
2010	4.65	4.67	4.75	4.50	4.53	4.29	4.32	4.29	4.51	4.04	3.79	4.27	4.41	4.35
2011	4.50	4.59	4.73	4.38	4.57	4.21	4.22	4.27	4.60	3.90	3.73	4.18	4.34	4.23

2012	4.61	4.67	4.77	4.52	4.46	4.23	4.24	4.24	4.51	4.11	3.81	4.15	4.35	4.48
2013	4.39	4.38	4.57	4.18	4.17	3.92	4.03	3.92	4.37	3.85	3.73	3.83	4.10	4.18
2014	4.57	4.57	4.68	4.41	4.52	4.29	4.28	4.26	4.54	4.05	3.90	4.16	4.36	4.43
2015	4.69	4.64	4.75	4.53	4.53	4.31	4.29	4.37	4.61	4.02	3.80	4.16	4.45	4.47
2016	4.64	4.73	4.81	4.55	4.58	4.37	4.39	4.38	4.66	4.00	3.75	4.23	4.53	4.55
2017	4.65	4.73	4.78	4.52	4.49	4.29	4.35	4.26	4.63	4.04	3.92	4.16	4.39	4.47
平均	4.59	4.61	4.72	4.44	4.46	4.22	4.26	4.25	4.53	4.00	3.81	4.14	4.36	4.38

通年

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.54	4.54	4.61	4.31	4.29	4.07	4.14	4.13	4.39	3.97	3.84	4.07	4.30	4.21
2010	4.63	4.63	4.77	4.47	4.54	4.24	4.26	4.28	4.57	4.04	3.81	4.20	4.41	4.26
2011	4.52	4.61	4.74	4.38	4.57	4.17	4.07	4.21	4.54	3.97	3.75	4.10	4.35	4.28
2012	4.48	4.60	4.74	4.44	4.47	4.19	4.21	4.19	4.48	4.04	3.72	4.11	4.33	4.44
2013	4.50	4.52	4.66	4.28	4.37	4.05	4.09	4.05	4.45	3.92	3.69	3.94	4.21	4.29
2014	4.56	4.54	4.68	4.36	4.50	4.20	4.27	4.20	4.52	4.02	3.82	4.08	4.33	4.40
2015	4.69	4.70	4.78	4.57	4.60	4.31	4.37	4.37	4.63	4.08	3.87	4.22	4.48	4.54
2016	4.59	4.68	4.76	4.48	4.56	4.28	4.36	4.30	4.60	3.99	3.75	4.17	4.46	4.51
2017	4.60	4.65	4.78	4.45	4.48	4.19	4.26	4.18	4.58	4.04	3.87	4.08	4.30	4.40
平均	4.57	4.61	4.72	4.42	4.49	4.19	4.23	4.21	4.53	4.01	3.79	4.11	4.35	4.37

表4：アドバンスト科目群（回答の平均値）

春学期

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.62	4.71	4.77	4.51	4.56	4.39	4.37	4.39	4.65	4.07	4.07	4.32	4.53	4.35
2010	4.64	4.67	4.74	4.48	4.56	4.39	4.42	4.48	4.64	4.07	4.01	4.27	4.54	4.42
2011	4.61	4.63	4.75	4.46	4.64	4.34	4.36	4.36	4.63	4.16	4.17	4.31	4.50	4.38
2012	4.60	4.63	4.77	4.51	4.60	4.39	4.45	4.35	4.67	4.12	4.07	4.28	4.52	4.58
2013	4.55	4.57	4.68	4.41	4.46	4.27	4.35	4.24	4.57	4.07	4.10	4.21	4.43	4.48
2014	4.60	4.62	4.74	4.46	4.56	4.35	4.40	4.33	4.65	4.11	4.02	4.25	4.49	4.54
2015	4.58	4.63	4.71	4.48	4.55	4.41	4.39	4.38	4.66	4.09	3.97	4.26	4.51	4.54
2016	4.60	4.66	4.76	4.45	4.50	4.28	4.35	4.28	4.59	4.10	3.92	4.23	4.44	4.51

2017	4.64	4.65	4.74	4.45	4.50	4.26	4.37	4.23	4.62	4.06	4.00	4.22	4.45	4.54
平均	4.60	4.64	4.74	4.47	4.55	4.34	4.38	4.34	4.63	4.09	4.04	4.26	4.49	4.48

秋学期

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.57	4.61	4.74	4.47	4.58	4.38	4.42	4.45	4.68	4.09	4.17	4.28	4.51	4.41
2010	4.64	4.61	4.67	4.50	4.61	4.38	4.42	4.36	4.62	4.18	4.20	4.28	4.43	4.40
2011	4.64	4.67	4.74	4.46	4.58	4.44	4.40	4.39	4.66	4.06	4.04	4.27	4.55	4.40
2012	4.58	4.67	4.74	4.50	4.61	4.31	4.31	4.36	4.61	4.10	4.06	4.18	4.44	4.47
2013	4.56	4.62	4.66	4.43	4.55	4.28	4.31	4.30	4.62	4.12	4.12	4.19	4.40	4.43
2014	4.68	4.71	4.79	4.59	4.65	4.43	4.49	4.37	4.69	4.22	4.18	4.31	4.58	4.66
2015	4.63	4.71	4.74	4.54	4.65	4.47	4.44	4.37	4.69	4.16	4.17	4.35	4.53	4.57
2016	4.71	4.73	4.81	4.56	4.57	4.34	4.39	4.26	4.69	4.13	4.05	4.26	4.57	4.64
2017	4.74	4.78	4.87	4.58	4.67	4.53	4.44	4.40	4.74	4.20	4.15	4.41	4.66	4.70
平均	4.64	4.68	4.75	4.51	4.61	4.40	4.40	4.36	4.67	4.14	4.13	4.28	4.52	4.52

通年

年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
2009	4.59	4.65	4.75	4.48	4.57	4.39	4.40	4.42	4.67	4.08	4.13	4.29	4.52	4.38
2010	4.64	4.63	4.70	4.49	4.59	4.39	4.42	4.42	4.63	4.13	4.11	4.28	4.48	4.41
2011	4.62	4.65	4.75	4.46	4.62	4.39	4.38	4.38	4.65	4.12	4.11	4.29	4.53	4.39
2012	4.59	4.65	4.75	4.51	4.61	4.34	4.37	4.35	4.64	4.11	4.07	4.22	4.47	4.52
2013	4.56	4.60	4.67	4.42	4.51	4.28	4.33	4.27	4.60	4.10	4.11	4.20	4.41	4.45
2014	4.64	4.66	4.76	4.52	4.60	4.38	4.43	4.35	4.67	4.16	4.09	4.27	4.53	4.59
2015	4.61	4.67	4.72	4.51	4.60	4.44	4.41	4.38	4.68	4.13	4.07	4.31	4.52	4.55
2016	4.66	4.69	4.79	4.50	4.54	4.31	4.37	4.27	4.64	4.11	3.99	4.24	4.50	4.57
2017	4.68	4.71	4.80	4.51	4.57	4.37	4.40	4.30	4.67	4.12	4.06	4.30	4.54	4.60
平均	4.62	4.66	4.74	4.49	4.58	4.37	4.39	4.35	4.65	4.12	4.08	4.27	4.50	4.50

(2) 科目別学生満足度

表5は、コア科目、ベーシック科目、アドバンスト科目の科目群別に、設問12の「この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか」、設問13の「この授業は全

一般的に満足のいくものでしたか」、設問 14 の「この授業は今後の学習にとって有意義なものでしたか」の科目ごとの平均（小数第 3 位で四捨五入）を示したものである。各科目の授業の平均点については、履修人数、受講した学生など、様々な事情も絡んでいる。個々の教員がそれぞれに適切に分析し、今後の授業に生かしていくことが求められるであろう。

表 5：科目ごとの回答の平均値

春学期・コア科目

科目名	クラス	履修者数	設問 12	設問 13	設問 14
企業倫理	1	25	4.26	4.95	4.89
経営学	2	19	4.37	4.89	4.74
会計学	1	32	3.85	4.15	4.26
経済学	1	19	3.58	3.32	3.58
統計学	1	30	3.46	3.61	4.00
統計学	2	10	4.60	4.60	4.80
英語コミュニケーション	1	26	3.65	4.67	4.71
英語コミュニケーション	2	8	4.57	4.71	4.57

秋学期・コア科目

科目名	クラス	履修者数	設問 12	設問 13	設問 14
企業倫理	2	48	4.02	4.43	4.49
経営学	1	20	3.75	4.25	4.25
経営学	3	28	4.22	4.78	4.74
会計学	2	23	4.05	4.29	4.57
経済学	2	5	4.40	4.80	5.00
統計学	3	30	3.73	3.74	4.00
英語コミュニケーション	3	15	4.36	4.45	4.64
英語コミュニケーション	4	22	3.76	4.00	3.82

春学期・ベーシック科目

科目名	クラス	履修者数	設問 12	設問 13	設問 14
経営戦略	1	25	3.52	3.61	3.70
人的資源管理	1	27	4.13	4.29	4.29

マーケティング・マネジメント	1	45	4.29	4.38	4.50
ファイナンス	1	27	3.85	4.50	4.54
テクノロジー・マネジメント	1	18	4.24	4.94	4.82
ベンチャービジネス	1	17	4.27	4.38	4.56
公共経営論	1	16	3.75	3.94	4.00
行動科学		19	3.50	3.33	3.94
統計分析論		8	3.88	4.13	4.13
ゲーム理論	1	15	4.23	4.31	4.38
上級英語コミュニケーション	1	4	4.50	5.00	4.75

秋学期・ベーシック科目

科目名	クラス	履修者数	設問 12	設問 13	設問 14
経営戦略	2	17	4.24	4.71	4.63
人的資源管理	2	12	4.30	4.80	4.90
マーケティング・マネジメント	2	23	4.18	4.36	4.41
ファイナンス	2	13	4.20	4.40	4.40
財務諸表分析		40	3.94	4.03	4.19
テクノロジー・マネジメント	2	33	4.04	4.11	4.31
情報システム		6	5.00	5.00	5.00
ベンチャービジネス	2	23	3.90	4.19	4.19
公共経営論	2	12	4.00	4.40	4.60
ゲーム理論	2	17	4.13	4.56	4.69
グローバル・エコノミー		5	4.25	4.50	4.50
会社法		12	4.17	4.42	4.42
上級英語コミュニケーション	2	3	4.33	5.00	5.00
イノベティブ・シンキング		30	4.50	4.58	4.69

春学期・アドバンスト科目

科目名	クラス	履修者数	設問 12	設問 13	設問 14
企業ファイナンス	1	3	4.33	4.33	4.67
管理会計		16	3.53	3.47	4.07
企業経営史		12	3.82	4.36	4.60

国際経営		5	4.00	4.50	4.25
事業システム戦略論		23	3.89	4.37	4.53
組織管理事例研究		25	4.64	4.84	4.88
経営戦略事例研究	1	16	4.86	4.93	4.93
中小企業経営		27	4.20	4.60	4.60
地域振興		37	4.22	4.56	4.56
Business Negotiation(BS)		3	4.33	4.67	5.00
New Global Venture Creation(BS)		5	3.60	4.40	4.80
ブランド・マネジメント		30	4.37	4.59	4.70
マーケティング・コミュニケーション		6	3.80	4.20	4.00
マーケティング戦略		17	4.29	4.65	4.59
流通システム		7	4.67	5.00	5.00
金融工学		10	4.33	4.78	4.78
リスクマネジメント		14	4.08	4.33	4.42
Special Topics in Finance(BS)		3	4.00	4.50	4.50
生産システム		20	4.00	4.18	4.18
製品開発事例研究		10	3.78	4.11	4.11
標準化経営戦略		13	4.45	4.64	4.73
知的財産戦略		5	4.40	5.00	5.00
システム・シンキング		35	4.21	4.50	4.50
アントレプレナーシップ		19	3.94	4.00	4.18
企業倫理事例研究		20	4.31	4.82	4.82
研究開発型ベンチャー創成		43	4.11	4.26	4.34
企業経営戦略特論A		5	4.50	4.75	4.25
企業経営戦略特論D		31	4.38	4.34	4.52
企業経営戦略特論G		5	4.67	4.67	4.67
企業経営戦略特論I		35	3.63	3.89	4.22
課題研究基礎	1	9	4.75	4.88	4.88
課題研究基礎	2	9	4.56	4.78	4.89
課題研究基礎	3	5	4.25	4.00	4.00
課題研究基礎	7	19	4.26	4.53	4.58
課題研究	1	3	4.67	5.00	5.00

課題研究	1 1	8	4.57	3.86	4.43
課題研究	1 3	5	4.40	4.60	4.40
課題研究	1 5	5	5.00	5.00	5.00
課題研究	1 7	1	5.00	5.00	5.00
課題研究	2 1	1	5.00	5.00	5.00
公共経営事例研究	1	2	5.00	5.00	5.00
自治体会計		5	4.20	4.40	4.40
自治体ガバナンス		11	4.55	4.64	4.60
自治体財務管理(BS)	1	1	5.00	5.00	5.00
自治体財務管理事例研究		3	5.00	5.00	5.00
病院経営		10	3.88	3.88	4.00
病院経営事例研究		7	4.00	4.29	4.43
大学経営	1	1	4.00	5.00	5.00
大学財務管理(BS)		3	5.00	5.00	5.00

秋学期・アドバンスト科目

科目名	クラス	履修者数	設問 12	設問 13	設問 14
組織行動		23	4.58	4.89	4.89
企業家論		2	5.00	5.00	5.00
組織管理		20	4.35	4.41	4.47
人材マネジメント		11	4.70	4.90	4.90
NPOマネジメント(BS)		26	4.04	4.46	4.46
経営戦略事例研究	2	15	4.79	5.00	5.00
サービス・マーケティング		13	4.36	4.82	4.64
チャンネル・マネジメント		3	4.67	5.00	5.00
営業戦略		8	4.00	3.88	3.88
消費者行動		5	4.50	5.00	5.00
ロジスティクス		2	4.50	4.50	4.50
国際マーケティング		2	4.50	5.00	5.00
マーケティング・リサーチ		8	4.57	4.71	4.86
Special Topics in Marketing (BS)		2	5.00	5.00	5.00
証券投資		2	4.00	4.50	4.00

金融商品		6	4.33	4.67	4.67
イノベーション経営		12	4.80	4.80	4.80
製品開発		7	4.43	4.57	4.71
データマイニング		11	4.70	4.90	4.80
システム・デザイン演習		33	4.63	4.77	4.80
ベンチャービジネス事例研究		15	4.00	4.71	4.64
新規事業計画		22	4.38	4.48	4.52
企業経営戦略特論H		3	4.50	5.00	4.50
課題研究基礎	5	16	4.07	4.27	4.27
課題研究基礎	6	9	4.00	4.25	4.38
課題研究基礎	8	9	4.29	4.43	4.57
企業経営戦略特論J		14	4.78	4.78	5.00
企業経営戦略特論K		22	4.33	4.80	4.87
課題研究	2	8	5.00	4.57	5.00
課題研究	4	6	4.83	5.00	5.00
課題研究	6	1	5.00	5.00	5.00
課題研究	10	5	4.80	4.80	5.00
課題研究	12	3	4.67	5.00	5.00
課題研究	14	4	5.00	5.00	5.00
課題研究	16	7	5.00	5.00	5.00
課題研究	18	5	4.80	5.00	5.00
課題研究	20	1	5.00	5.00	5.00
課題研究	22	9	4.38	4.38	4.75
課題研究	24	3	4.67	4.67	4.67
官民パートナーシップ論		6	4.17	4.33	4.67
公共経営事例研究	2	1	4.00	5.00	5.00
地域経営事例研究		7	3.60	4.00	4.00
自治体財務管理 (BS)	2	3	4.50	4.50	4.50
病院会計 (BS)		12	4.18	4.55	4.55
病院組織管理		5	4.67	4.67	4.67
医療経済学		20	4.14	4.64	4.79
医療サービス・マネジメント		11	4.57	4.57	4.71

大学経営	2	1	5.00	5.00	5.00
大学組織管理		1	4.00	4.00	4.00
大学運営		27	4.08	4.76	4.76

B. 教員による担当科目自己評価

教員は、各授業終了後に「教員担当科目自己評価表」に次の3点の自己評価を記載することになっており、それぞれの評価を以下に示す。

(1) この科目を担当するにあたって最も力を入れたことは何ですか。

比較的多くの授業で挙げられていた特徴として、基本的な理論の理解、理論とケースのバランス、学生による報告とディスカッションの促進、グループワークの実施、ゲストスピーカーの招聘といった点があげられる。また課題研究においては、個人のテーマに即した指導に注力している教員が多く、一方通行となりがちな一般的なMBA教育の欠点を補う目的である課題研究の意義を確認できる。

(2) この科目において実施してよかった点と改善・工夫をしたほうが良い点は何ですか。

ある授業での実施してよかった点は、多くの授業で共通して挙げられていた特徴としては、(1)と重複する点もあるが、学生間のディスカッションの促進、ゲストスピーカーの招聘による実務内容の理解促進、グループ学習による学生間のコミュニケーションの促進、毎回のレポート提出、小テストの実施、優れたレポートの紹介、演習時間を長くとり、実態に即した内容にする、といった点があげられる。また教員独自の工夫も多く、特色のある授業を実施できていることが伺える。

また、改善すべき点としては、学生の発言機会に濃淡が生じること、学生に予習復習を徹底できていないといった点が挙げられる。

(3) この科目を担当するにあたって当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、ご自身の思っていた目標は達成されたと思いますか。

概して「概ね達成された」との意見が多かったが、学生のレベルの違いから、理解の不足している学生、もしくは物足りない学生への対処を課題とする意見、また授業進行のペースを工夫したいとの意見も多く見られた。

経営戦略専攻・国際経営コース

A. 学生による授業評価アンケート

以下に、国際経営コースにおける 2017 年度の授業評価アンケートの結果を春・秋学期別、および通年で過去 2 年度の結果と比較して分析する。ただし、質問項目 14「授業内容の就職後の実用性 (Course content were highly relevant and useful for your future career)」は国際経営コースで独自に追加している質問項目である。

表 1：2017 年度授業評価結果 (2015 年、2016 年度との比較、各回答者の平均値を小数点第二位で四捨五入)

	年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
春学期	2015	4.74	4.74	4.77	4.58	4.70	4.71	4.59	4.61	4.70	4.53	4.45	4.57	4.71	4.68
	2016	4.51	4.56	4.64	4.36	4.53	4.46	4.35	4.42	4.54	4.16	4.04	4.21	4.39	4.41
	2017	4.57	4.66	4.70	4.46	4.59	4.57	4.47	4.36	4.59	4.17	4.11	4.35	4.48	4.42
秋学期	2015	4.52	4.59	4.68	4.46	4.65	4.54	4.41	4.40	4.53	4.37	4.33	4.46	4.51	4.53
	2016	4.50	4.55	4.61	4.26	4.44	4.35	4.43	4.30	4.38	4.03	3.90	4.14	4.30	4.29
	2017	4.66	4.67	4.76	4.57	4.58	4.50	4.45	4.45	4.57	4.28	4.15	4.44	4.49	4.51
通年	2015	4.61	4.65	4.71	4.51	4.67	4.61	4.48	4.48	4.60	4.44	4.37	4.50	4.58	4.59
	2016	4.51	4.56	4.63	4.31	4.49	4.41	4.39	4.36	4.47	4.10	3.98	4.18	4.35	4.36
	2017	4.62	4.67	4.72	4.51	4.59	4.54	4.46	4.40	4.58	4.22	4.13	4.39	4.49	4.46

まず通年での学生による授業全体評価の水準自体は概ね高い評価で推移している。2017 年度の数値は 2016 年に比べて全ての項目において改善が見られた。合計 14 の質問項目うち半分の 7 項目で 4.5 点を上回り、その他の項目でも 4.0 点を下回るものはなかった。質問項目の平均が 4.5 点を上回るということは、回答者の多くが各質問に対して「Strongly Agree」、あるいは「Agree」と回答したことを示している。質問項目の全てが 4.0 点を超え、さらに、多くの質問項目の平均点が 4.5 点を上回る高水準であることを評価したい。

次に、過去 2 年との比較をしてみると、一昨年 2016 年度は平均すると 2015 年度の水準を下回ったが、2017 年度は全ての項目で 2016 年度を上回った。国際経営コースのセールス・ポイントの一つは、学生数が少人数のクラスのため丁寧に学生と教授間の応答型の教育手法が維持され教える内容が学生に十分に伝わるクラスが多いことであり、これが学生満足度の向上の源泉である。2016 年度は学生数が増加し、こうしたセールス・ポイントが十分に発揮できなかった。2017 年度には、多少、挽回が図られたわけだが、2015 年度の水準が十分に回復されたとはいえず、今後とも引き続き、継続的な改善努力が必要である。

個々の質問項目の評価点を詳細に分析すると、高い評価の 3 つの項目を見てみると、質問項目 3「The instructor's knowledge level was high enough to teach the course」においては 4.72 点、質問項目 2「The instructor was well prepared for the classes」が 4.67 点、質問項目 1「The course met the objectives and topics described in the syllabus.」が 4.62 点であった。概ね昨年と同様の評価結果である。トップ 3 から伺えるのは、教員に対する学生の高い評価である。教員全体が継続的な教育の向上活動 (FD) を行ったこと、シラバ

ス記載の充実を組織的に推進した結果が反映されているものとする。

次に高い評価が見られるのは、例えば質問項目 14「Course content were highly relevant and useful for your future career」が 4.62 点、質問項目 9「The instructor answered students' questions clearly and sufficiently」が 4.58 点、質問項目 5「The instructor encouraged students comment and discussion.」が 4.59 点などであった。こちらも多少、順位の変動はあるが、例年、高評価を得ることができている質問項目である。

一方、比較的低い評価であったのは、質問項目 11「You made additional efforts for the course such as searching related materials for course topics」が 4.13 点、質問項目 10「You prepared and reviewed thoroughly for the classes」が 4.22 点、質問項目 12「You have obtained analytical abilities and critical thinking from the course.」が 4.39 点、質問項目 8「The course was well prepared in terms of contents and time allocation」4.40 点、などであった。学生側の主体的な学習への取り組み姿勢を問う質問、および、学習の成果や科目設計への評価を問うもので、こちらも例年と同様の質問項目である。多くの質問項目で評価が落ち込んだ昨年度に比べれば、若干の改善はみられているものの、一昨年の水準にはまだ回復しておらず、継続的な改善の取り組みが必要であるものと考えられる。

2016 年度の授業評価結果の落ち込みは、主に学生数の増加に起因するものと考えられ、2017 年度には学生の増加傾向が一服した反動で、やや授業評価が改善したのではないかと考えられる。学生数が増加すれば、一人一人の履修者への目配りは相対的に低下するし、学生側の緊張感も薄れる、ということであろうか。入学者の増加が重要な課題であり続ける一方で、履修者の増加と授業評価結果とのバランスを両立するチャレンジも重要な課題になっているものと考えられる。

表 2：2017 年度授業評価コア科目群結果（2015 年、2016 年度との比較、各回答者の平均値を小数点第二位で四捨五入）

	年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
春学期	2015	4.72	4.80	4.78	4.65	4.76	4.69	4.57	4.63	4.66	4.56	4.45	4.54	4.64	4.71
	2016	4.52	4.63	4.71	4.40	4.61	4.57	4.41	4.43	4.52	3.99	3.74	3.97	4.30	4.22
	2017	4.44	4.52	4.58	4.42	4.27	4.31	4.17	4.04	4.40	4.00	3.79	4.02	4.15	4.19
秋学期	2015	4.28	4.35	4.48	4.31	4.41	4.24	4.24	4.24	4.28	3.96	3.91	4.08	4.20	4.26
	2016	4.54	4.61	4.68	4.33	4.49	4.51	4.30	4.14	4.37	3.85	3.67	4.22	4.25	4.30
	2017	4.66	4.65	4.75	4.63	4.72	4.39	4.33	4.38	4.57	4.26	4.11	4.25	4.35	4.42
通年	2015	4.51	4.59	4.64	4.49	4.59	4.48	4.41	4.44	4.48	4.27	4.19	4.32	4.43	4.50
	2016	4.53	4.63	4.70	4.37	4.56	4.54	4.36	4.31	4.46	3.93	3.71	4.08	4.28	4.25
	2017	4.58	4.60	4.68	4.55	4.55	4.36	4.27	4.24	4.50	4.15	3.98	4.16	4.27	4.33

表 3：2017 年度授業評価ベーシック科目群結果（2015 年、2016 年度との比較、各回答者の平均値を小数点第二位で四捨五入）

	年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
春学期	2015	4.70	4.78	4.74	4.41	4.70	4.74	4.44	4.37	4.74	4.56	4.52	4.74	4.81	4.85
	2016	4.59	4.57	4.71	4.40	4.56	4.38	4.23	4.45	4.61	4.21	4.14	4.18	4.45	4.60
	2017	4.64	4.80	4.87	4.66	4.75	4.73	4.33	4.44	4.74	4.09	4.09	4.33	4.58	4.56
秋学期	2015	4.49	4.50	4.61	4.37	4.59	4.48	4.28	4.27	4.46	4.32	4.30	4.40	4.40	4.47
	2016	4.54	4.58	4.61	4.27	4.40	4.28	4.42	4.41	4.37	3.99	3.86	4.05	4.29	4.30
	2017	4.66	4.68	4.74	4.57	4.58	4.52	4.31	4.41	4.55	4.19	3.99	4.48	4.49	4.53
通年	2015	4.53	4.56	4.64	4.38	4.62	4.53	4.31	4.29	4.52	4.37	4.35	4.47	4.49	4.55
	2016	4.56	4.58	4.65	4.32	4.47	4.32	4.34	4.43	4.47	4.09	3.98	4.11	4.36	4.43
	2017	4.65	4.72	4.78	4.60	4.64	4.59	4.32	4.42	4.61	4.16	4.02	4.43	4.52	4.54

表 4：2017 年度授業評価アドバンスト科目群結果（2015 年、2016 年度との比較、各回答者の平均値を小数点第二位で四捨五入）

	年度	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
春学期	2015	4.77	4.68	4.76	4.59	4.65	4.71	4.64	4.66	4.72	4.51	4.42	4.54	4.71	4.62
	2016	4.46	4.52	4.56	4.33	4.47	4.45	4.37	4.39	4.52	4.23	4.16	4.37	4.41	4.43
	2017	4.59	4.67	4.69	4.43	4.64	4.60	4.59	4.42	4.61	4.24	4.20	4.45	4.55	4.45
秋学期	2015	4.66	4.77	4.83	4.59	4.80	4.73	4.59	4.58	4.70	4.59	4.54	4.67	4.73	4.70
	2016	4.46	4.50	4.58	4.21	4.44	4.33	4.51	4.29	4.40	4.14	4.05	4.18	4.35	4.28
	2017	4.67	4.67	4.78	4.51	4.47	4.59	4.71	4.58	4.60	4.38	4.36	4.58	4.63	4.58
通年	2015	4.71	4.73	4.80	4.59	4.74	4.72	4.61	4.61	4.71	4.56	4.49	4.62	4.72	4.66
	2016	4.46	4.51	4.57	4.28	4.46	4.39	4.43	4.35	4.47	4.19	4.11	4.28	4.38	4.36
	2017	4.62	4.67	4.72	4.45	4.58	4.60	4.63	4.47	4.60	4.28	4.25	4.49	4.57	4.49

また、表 2 から表 4 はコア、ベーシック、アドバンストの科目群による同評価結果である。全体評価との比較で考えると、傾向としては前述した内容と同じ傾向が見受けられる。つまり、過去 2 年との比較をしてみると 2016 年度よりも全体的に評価が上がり、2015 年度の水準に回復しつつある。

科目群間の比較では、コア科目に比べて、ベーシック科目、アドバンスト科目での高評価が目立つ。コア科目は必修のコースで構成されているためベーシック科目、アドバンスト科目に比べて授業評価結果が低くなる傾向にあるものと考えられる。また、アドバンスト科目に対する授業評価はベーシック科目よりも全体的にやや評価が高い傾向が伺われた。履修者の興味や関心次第で学習意欲に差が付き、これが授業評価結果に反映されているものと考えられる。逆にいえば、ベーシック科目、アドバンスト科目を履修する際の礎となるコア科目群に対する授業評価結果を、どのように向上させていくのかは、各担当教員に課された大きな課題であるものと考えられる。

個々の質問項目で見ると、コア科目群、ベーシック科目群、アドバンスト科目群すべてで質問項目 3 「The instructor's knowledge level was high enough to teach the course」が昨年同様最も高く、おのおの 4.68 点、4.78 点、4.72 点と 4.6 点を上回る高い評価であった。この結果からも、教員の知識レベルを学生が高く評価していることが伺われる。一方、一番低い評価項目は、各科目群に共通で、質問項目 11 「You made additional efforts

for the course such as searching related materials for course topics」の 3.98 点、4.02 点、4.25 点であった。学生の立場からすると、教員から明確に指示された課題をこなすだけで精一杯であり、自発的に追加の学習をしたか、と問われること自体が想定外である、ということなのかもしれない。逆にいえば、教員側で積極的にプラス・アルファの自主学習を動機付けていく必要があり、こうした取り組みが、より一層の学習効果の深化につながるものと考えられる。

B. 教員による授業評価アンケート

上述の授業評価アンケートの分析結果を受け、特に学生による高評価を獲得している科目を中心に、担当教員が、どのような工夫を施し、履修者の満足度の向上を実現しているのか、という観点から、担当教員の自己評価結果を分析した。

これらの科目で共通して強調されているのは学生の活発な授業参画を担保する様々な仕組みである。学生によるプレゼンテーション、グループ・ディスカッション、長めの Q&A 時間の設定、(教員・学生間ではなく) 学生間の討議を仕掛ける、等が代表的なものである。その他、視聴覚教材の利用や、実務家教員を中心に自己の実務経験の積極的な共有、学生自身に自己の授業内のパフォーマンスを振り返らせる、などのアプローチも興味深いものと考えられた。

一方で、学生による授業評価アンケートの評点が思わしくなかった科目についても、上記の科目との比較の観点から分析を行ったところ、興味深いことに、取り組み内容には大きな違いがないように思われた。学生による発言機会を増やすために、前回の授業のサマリーを学生に述べさせたり、履修者の間での知識レベルや、関心領域の違いを把握するために、開講時にサーベイを行ったり等、むしろ取り組み内容には学ぶべき点が多い科目も散見され、一概に担当教員の取り組み内容そのものが学生の満足度を左右しているとも言い切れない状況が見て取れた。

こうした状況の背景として考えられる可能性の一つは、対象となっている科目群の特性であるかもしれない。学生による評価が高い科目にはマーケティング系の科目が多い一方で、そうでない科目にはファイナンス系の科目が目立つ。科目の内容自体が学生の満足度に大きく影響する可能性は大きくはないと考えられるので、マーケティング専攻の学生と、ファイナンス専攻の学生との間に授業を評価する際の姿勢に違いがあるのかもしれない。こうした可能性を検証するには個々の科目に対する授業評価結果を履修者の専攻領域別に比較する分析が必要となるので現在のデータでは充分に対応できない。今後の授業評価アンケートの活用方法の一つの検討課題になろうかと考えられる。

もう一つの可能性として考えられるのは、取り組み内容そのものではなく、その徹底度に差があるのではないかと、いうものである。この可能性についても直接の検証にはいくつかの障害が存在するので、必ずしも容易ではないものと考えられるが、授業評価結果の高い科目を、他の科目を担当する教員が参観することで、ある程度の傍証のようなものを得

ることができる可能性は低くはないであろう。学生による授業評価にせよ、教員の自己評価にせよ、毎年度、多少の変動こそあれ、概ね同様の傾向が観測され続けて久しい。観測されたデータを基に、なんらかの改善アクションを実行に移す段階に来ているのではないかと考えられる。

5. 会計専門職専攻

A. 学生による授業評価

(1) 概要

学生による授業評価アンケートは、【設問 1】から【設問 9】が「教員の授業内容と方法」について、【設問 10】と【設問 11】が「学生自身の取組み」について、【設問 12】から【設問 14】が「授業の満足度」について問うものである。

各設問の平均値（四捨五入）および【設問 13】とその他の設問との相関係数（四捨五入）は、次のとおりである。

<各設問の平均値と【設問 13】とその他の設問との相関係数>

番号	設問文	2017 年度春学期		2017 年度秋学期	
		平均値	問 13 との相関係数	平均値	問 13 との相関係数
1	授業内容はシラバスで示された主題や目的に十分沿っていましたが	4.8	0.48	4.7	0.38
2	教員は十分に準備をして授業に臨んでいましたか	4.8	0.50	4.7	0.54
3	教員は担当科目の授業を行うのに十分な専門知識を持っていましたか	4.9	0.44	4.8	0.54
4	授業で指定された教科書や配布された資料は、学習の助けとなりましたか	4.7	0.60	4.6	0.61
5	教員は学生が発言したり議論をすることに十分な配慮を払いましたか	4.6	0.36	4.5	0.55
6	教員は個々の学生の内容理解の水準を考慮していましたか	4.5	0.58	4.4	0.64
7	この授業で与えられる課題の量は適正なものでしたか	4.5	0.55	4.4	0.48
8	授業の内容と時間配分は適正なものでしたか	4.5	0.60	4.5	0.61
9	教員は学生の質問に丁寧に答えていましたか	4.7	0.38	4.7	0.61
10	この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか	4.3	0.33	4.3	0.46
11	この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか	4.1	0.23	4.1	0.47
12	この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか	4.4	0.61	4.4	0.68
13	この授業は全般的に満足いくものでしたか	4.6		4.6	
14	この授業は今後の学習にとって有意義なものでしたか	4.7	0.82	4.6	0.82

(2) 全体評価～専攻平均値～

専攻平均値は、すべての設問の評点を延べ有効回答数で平均したもの（総平均値、四捨五入）である。会計専門職専攻が開設された 2005 年度から 2017 年度にかけての専攻平均値の推移は、次のとおりである。

<専攻平均値の推移>

	2005 年度	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度
春学期	3.9	4.2	4.3	4.4	4.3	4.3
秋学期	4.2	4.3	4.5	4.5	4.5	4.4
	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度
春学期	4.3	4.6	4.6	4.7	4.6	4.6
秋学期	4.4	4.6	4.7	4.7	4.6	4.6
	2017 年度					
春学期	4.6					
秋学期	4.5					

専攻平均値は、2007 年度秋学期まで上昇し続けた後、2008 年度から 2011 年度までは 4.3 から 4.5 という値を記録してきた。2012 年度以降は、4.5 以上を保ち続けている。このように近年は、総合的な評価としては高位での安定が図られているものと言ってよいであろう。

なお、2013 年度までは、秋学期に比して春学期の方の値が低いという傾向がみられた。この点については、秋学期よりも春学期の方の入学者が多く、新入生が専門職大学院のカリキュラムなどに不慣れな点が現れている可能性が考えられる。2014 年度以降はその様な傾向は見られていないが、今後、この傾向が見られる場合には、科目群（コア、ベーシック、アドバンスト）ごとの評価などを踏まえた取組みを検討する必要があるかもしれない。

(3) 個別評価

① 教員の授業内容と方法（【設問 1】～【設問 9】）

専攻全体に関しては、2017 年度はやや微減傾向ではあるものの、全体としては比較的高い水準を維持している。

【設問 1】から【設問 4】の評点は 4.6 以上と高いことから、担当科目についての資質を有する教員が、シラバスに沿って、資料の作成等を含む十分な準備をして授業に臨んでいることについて、学生から高い評価を得ているといえる結果となっている。【設問 9】も高いが、これは各科目の受講者が少人数となり、より質問をし易い環境が形成された可能性が考えられる。

< 【設問 1】 から 【設問 9】 の平均値 >

	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9
(専攻全体)									
2012 年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.5	4.4	4.5	4.6	4.7
2012 年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.6	4.5	4.5	4.6	4.7
2013 年度春学期	4.8	4.7	4.9	4.7	4.6	4.5	4.6	4.6	4.7
2013 年度秋学期	4.8	4.9	4.9	4.8	4.7	4.5	4.7	4.6	4.8
2014 年度春学期	4.8	4.9	4.9	4.8	4.7	4.7	4.7	4.6	4.8
2014 年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.8	4.7	4.6	4.7	4.7	4.8
2015 年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.8	4.6	4.6	4.6	4.6	4.8
2015 年度秋学期	4.8	4.9	4.9	4.7	4.6	4.5	4.6	4.6	4.7
2016 年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.6	4.5	4.6	4.6	4.7
2016 年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.7	4.6	4.6	4.6	4.8
2017 年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.6	4.5	4.5	4.5	4.7
2017 年度秋学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.5	4.4	4.4	4.5	4.7
(コア科目)									
2012 年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.6	4.4	4.3	4.4	4.5	4.6
2012 年度秋学期	4.7	4.8	4.9	4.6	4.4	4.3	4.5	4.6	4.6
2013 年度春学期	4.8	4.7	4.9	4.7	4.5	4.4	4.5	4.5	4.7
2013 年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.8	4.5	4.3	4.5	4.4	4.7
2014 年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.8	4.6	4.6	4.6	4.6	4.8
2014 年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.8	4.7	4.5	4.7	4.7	4.7
2015 年度春学期	4.7	4.7	4.9	4.7	4.5	4.5	4.6	4.5	4.7
2015 年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.5	4.5	4.5	4.5	4.7
2016 年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.5	4.5	4.5	4.5	4.7
2016 年度秋学期	4.7	4.8	4.9	4.6	4.6	4.5	4.5	4.4	4.7
2017 年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.6	4.5	4.4	4.4	4.4	4.6
2017 年度秋学期	4.7	4.6	4.7	4.5	4.3	4.2	4.3	4.4	4.5
(ベーシック科目)									
2012 年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.6	4.4	4.5	4.6	4.7
2012 年度秋学期	4.9	4.8	4.9	4.8	4.7	4.6	4.6	4.7	4.8
2013 年度春学期	4.8	4.7	4.9	4.7	4.6	4.5	4.6	4.7	4.8
2013 年度秋学期	4.9	4.9	4.9	4.9	4.7	4.7	4.8	4.7	4.9
2014 年度春学期	4.9	4.9	4.9	4.9	4.7	4.7	4.8	4.8	4.8
2014 年度秋学期	4.8	4.8	5.0	4.7	4.7	4.6	4.7	4.7	4.9
2015 年度春学期	4.9	4.9	5.0	4.9	4.6	4.7	4.7	4.7	4.8
2015 年度秋学期	4.8	4.9	4.9	4.8	4.7	4.6	4.7	4.7	4.7
2016 年度春学期	4.8	4.9	4.9	4.8	4.6	4.6	4.6	4.7	4.7
2016 年度秋学期	4.8	4.9	4.9	4.8	4.7	4.6	4.6	4.7	4.8
2017 年度春学期	4.9	4.9	5.0	4.8	4.8	4.6	4.7	4.7	4.9
2017 年度秋学期	4.8	4.7	4.8	4.7	4.7	4.5	4.5	4.6	4.7
(アドバンスト科目)									
2012 年度春学期	4.8	4.9	4.9	4.8	4.8	4.7	4.6	4.7	4.9
2012 年度秋学期	4.8	4.9	4.9	4.8	4.7	4.6	4.6	4.6	4.8

2013年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.9	4.6	4.6	4.7	4.8
2013年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.8	4.7	4.6	4.7	4.7	4.8
2014年度春学期	4.9	5.0	4.9	4.9	4.9	4.8	4.8	4.6	4.9
2014年度秋学期	4.9	4.9	4.9	4.8	4.7	4.7	4.7	4.8	4.8
2015年度春学期	4.9	4.9	4.9	4.8	4.8	4.6	4.7	4.6	4.9
2015年度秋学期	4.8	4.9	4.9	4.8	4.8	4.7	4.8	4.7	4.8
2016年度春学期	4.7	4.8	4.8	4.8	4.8	4.5	4.6	4.6	4.8
2016年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.8	4.6	4.7	4.7	4.8
2017年度春学期	4.8	4.7	4.9	4.6	4.9	4.7	4.5	4.6	4.9
2017年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.8	4.7	4.6	4.5	4.5	4.8

【設問 5】から【設問 8】については、上記設問に比して相対的には低い評点となっている。

授業の難易度の影響は、科目群ごとの結果から調べられる。科目群ごとの評価に関しては、全体的な傾向として、コア科目は低めに、そしてアドバンスト科目は高めの結果が出ている。特に、コア科目の【設問 5】から【設問 8】は 4.2～4.4 と相対的にかなり低い結果となっている。

コア科目は導入教育に該当する科目が多く、そこでは、講義形式で一定量の負荷をもって実施されることが多い。また、会計士・税理士をめざすプログラムの授業内容は、近年の企業会計基準の新設・改訂等によって増加している傾向にあらう。このような導入教育段階にあるコア科目の受講時において、学生が授業内容および課題の取組みにとりわけ負荷を感じていることが考えられる。さらに、入学時点での会計知識の水準も影響しているであらう。

もしかすると、コア科目の【設問 5】から【設問 8】にかけて評点が低かった原因は、学生の会計知識の水準が関係しているのかもしれない。そうだとするならば、特にコア科目に関しては、教員には、学生の会計知識の水準に対して、何らかの対応をする必要があるだろう。会計大学院として求められている水準を考えると、コア科目の授業水準を下げることは慎重であるべきだが、より分かりやすい資料や説明を工夫するなどの取り組みは必要と思われる。

② 学生自身の取組み（【設問 10】・【設問 11】）

「学生自身の取組み」を問う【設問 10】と【設問 11】の評価に関して、専攻全体でみると、2017 年度は前年度と比べて微減しているが、2017 年度秋学期のアドバンスト科目は、春学期と比べて大きく減少している。この傾向が今後も続くのかは、注視する必要がある。

【設問 10】と【設問 11】の評点は、他の設問に比して、常に低くなっている。これは、学生自身の謙虚な姿勢が表れている可能性があるものの、予習・復習、課題を含めた授業

全体の実践に改善の余地があるものとも言えよう。特に、【設問 11】の評点は全ての設問の中で最も低いものとなっており、自分から文献を探すなどの努力を促す取組みを引き続き行う必要がある。これらの点は、本学だけでなく、専門職大学院の教育一般にとっても課題となっているテーマであることから、今後とも注視しなければならない。

教員による継続的な取組みとして、【設問 10】に関しては、後述の教員の担当科目自己評価表と合わせて検証し、改善策を検討して、これを実践することが考えられる。特に、授業で与える課題の量を予習・復習との関係も踏まえて設定するなど、予習・復習、課題などを含めた授業全体の構成を検討することも必要であろう。【設問 11】に関しては、【設問 4】とも関係するが、教科書・配布資料に加えて、教員が授業中に参考文献などを紹介すること、レポートや課題を課す際には文献にあたるよう指導をすることを、これまで以上に行うことが必要であると考えられる。

< 【設問 10】 から 【設問 14】 の平均値 >

	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
(専攻全体)					
2012 年度春学期	4.1	4.0	4.3	4.6	4.7
2012 年度秋学期	4.2	4.1	4.4	4.7	4.7
2013 年度春学期	4.2	3.9	4.3	4.6	4.6
2013 年度秋学期	4.4	4.2	4.5	4.7	4.7
2014 年度春学期	4.3	4.0	4.4	4.8	4.8
2014 年度秋学期	4.3	4.1	4.5	4.8	4.8
2015 年度春学期	4.3	4.1	4.5	4.7	4.8
2015 年度秋学期	4.3	4.2	4.5	4.7	4.7
2016 年度春学期	4.4	4.2	4.4	4.6	4.7
2016 年度秋学期	4.4	4.2	4.4	4.6	4.7
2017 年度春学期	4.3	4.1	4.4	4.6	4.7
2017 年度秋学期	4.3	4.1	4.4	4.6	4.6
(コア科目)					
2012 年度春学期	4.1	3.8	4.2	4.5	4.6
2012 年度秋学期	4.1	3.9	4.2	4.5	4.6
2013 年度春学期	4.2	3.9	4.2	4.5	4.6
2013 年度秋学期	4.4	4.1	4.3	4.6	4.7
2014 年度春学期	4.3	3.9	4.3	4.7	4.8
2014 年度秋学期	4.1	4.0	4.4	4.7	4.7
2015 年度春学期	4.3	4.0	4.4	4.7	4.7
2015 年度秋学期	4.3	4.1	4.3	4.6	4.7
2016 年度春学期	4.3	4.1	4.3	4.6	4.7
2016 年度秋学期	4.4	4.2	4.4	4.5	4.6
2017 年度春学期	4.2	4.0	4.3	4.6	4.7

2017年度秋学期	4.3	4.0	4.2	4.4	4.5
(ベーシック科目)					
2012年度春学期	4.2	4.1	4.3	4.6	4.7
2012年度秋学期	4.3	4.2	4.6	4.8	4.8
2013年度春学期	4.3	4.0	4.5	4.6	4.7
2013年度秋学期	4.5	4.3	4.5	4.8	4.8
2014年度春学期	4.3	4.1	4.5	4.8	4.8
2014年度秋学期	4.4	4.1	4.6	4.8	4.9
2015年度春学期	4.3	4.1	4.5	4.8	4.8
2015年度秋学期	4.3	4.2	4.5	4.8	4.7
2016年度春学期	4.5	4.4	4.5	4.7	4.8
2016年度秋学期	4.3	4.2	4.4	4.7	4.7
2017年度春学期	4.4	4.3	4.5	4.8	4.8
2017年度秋学期	4.3	4.2	4.5	4.6	4.7
(アドバンスト科目)					
2012年度春学期	4.3	4.3	4.6	4.8	4.8
2012年度秋学期	4.3	4.2	4.6	4.8	4.8
2013年度春学期	4.2	4.1	4.4	4.7	4.7
2013年度秋学期	4.4	4.2	4.5	4.7	4.8
2014年度春学期	4.3	4.2	4.6	4.9	4.9
2014年度秋学期	4.3	4.2	4.6	4.8	4.9
2015年度春学期	4.4	4.3	4.7	4.8	4.8
2015年度秋学期	4.4	4.3	4.7	4.8	4.8
2016年度春学期	4.3	4.1	4.5	4.6	4.6
2016年度秋学期	4.5	4.4	4.6	4.7	4.7
2017年度春学期	4.5	4.5	4.7	4.7	4.7
2017年度秋学期	4.1	4.0	4.5	4.7	4.7

③ 授業の満足度（【設問 12】～【設問 14】）

【設問 12】から【設問 14】の評価は、授業に対する評価の結論的指標となるものである。専攻全体でみると、【設問 12】～【設問 14】の2017年度の評点は、水準としてはこれまでと同様の値を保っている。

科目群でみると、分析能力や批判力が涵養されたかを問う【設問 12】について、コア科目の評点がベーシック科目とアドバンスト科目に比して低いものとなっている。上述のとおり、コア科目は分析能力や批判力の基礎知識を涵養する導入教育であることから、やむを得ない部分もあろうかと思われるが、授業方法等に工夫を図れないか、担当教員に検討を期待したいところである。

【設問 12】～【設問 14】に関しても、コア科目の評点は他の科目と比べて低めの評点が出ている。授業内容の改善を図るなら、まずはコア科目の内容から見直すことが効果的と

思われる。

以上より、適切な教科書の指定や教材の開発・準備のもと、授業内容の水準、量（予習・復習、学生自身の取組みを促す課題などを含む）、そして授業時間とのバランスを図り、個々の学生の内容理解の水準に応じたフォローを行いながら、より分析能力・批判力を涵養する授業を実践していくことの重要性が引き続き指摘できよう。

B. 教員による担当科目自己評価

教員による担当科目自己評価表は、【設問 1】この科目を担当するにあたって最も力を入れたことは何ですか、【設問 2】この科目において、①実施してよかった点と②改善・工夫をした方がよい点は何ですか、【設問 3】この科目を担当するにあたって当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、ご自身の思っていた目標は達成されたと感じますか、という3つの設問について、担当教員が記述形式で回答するものである。

以下では、各設問に対する回答の傾向を把握するために回答内容を分類し、これに基づいて分析を行っている。ただし、次のような制約、限界がある点に留意されたい。まず、分類にあたっては回答の文言よりもその趣旨に基づいているが、各設問の回答は記述形式であるため、その判断が主観的なものとならざるを得ない部分がある。また、全体的な傾向を明らかにするため、回答が1つもしくは2つの場合には、表には含めていない。

なお、【設問 1】と【設問 2】では、開講が複数回なされている科目については重複してカウントしていないが、1つの設問に対して複数の回答しているものについては、それぞれカウントしている。【設問 3】は、重複している科目も含めてすべてカウントしている。

(1) 【設問 1】に対する回答内容とその分析

【設問 1】（この科目を担当するにあたって最も力を入れたことは何ですか）に対する回答内容の概要は、次の表のとおりである。

< 【設問 1】に対する回答内容 >

	コア科目	ベーシック科目	アドバンス科目
基礎的・体系的知識の修得	12	10	2
事例・実務を踏まえた授業	1	4	8
一定水準の知識・能力の修得	1	15	14
計算力・論述力の修得	2	6	2
担当科目の重要トピックに関する詳細な解説	3	6	3

グループワーク・ディスカッションなど双方向な授業の実践	—	1	6
実践的な能力の修得	—	1	14
丁寧な解説	4	1	3
学生による自主的・積極的な学習実践の促進	—	—	4

コア科目では、「基礎的・体系的知識の修得」に最も力を入れているとの回答が突出して多い。これは、コア科目の性格上、当然と思われる。

ベーシック科目においても「基礎的・体系的知識の修得」との回答が多いが、「一定水準の知識・能力の修得」との回答も多い。ベーシック科目ということで、より高度な理論を教えているようである。

アドバンスト科目では、「一定水準の知識・能力の修得」と「実践的な能力の修得」の回答が多くなり、また「事例・実務を踏まえた授業」の回答も多い。アドバンスト科目なので、専門性の高い授業が多くなっていることがみてとれる。

また、アドバンスト科目の多くの授業は、単純な講義形式ではなく、演習発表やグループワークを取り入れるなどし、双方向の授業を実施しているのも特徴である。一見すると、「グループワーク・ディスカッションなど双方向な授業の実践」との回答は6つしかないもので、そこまで多くない印象を受けるかもしれないが、これは、アドバンスト科目では演習形式・グループワーク形式が一般的になってしまっているため、改めて【設問1】で回答することでもなかったことが理由と思われる（このことは、【設問2】の回答で「学生による課題報告（発表）や意見発信」や「双方向な授業の実践」が非常に多いことから分かる）。

（2）【設問2】に対する回答内容とその分析

【設問2】は、①担当科目において実施してよかった点と、②担当科目について改善・工夫をした方がよい点に対する自己評価を回答することとなっている。

① 担当科目において実施してよかった点

担当科目において実施してよかった点に対する回答内容の概要は、次の表のとおりである。

<担当科目において実施してよかった点に対する回答内容>

	コア科目	ベーシック科目	アドバンスト科目
小テスト・中間テストの実施	10	6	1
宿題・レポートなどの課題	4	7	1

要点を得たもしくは詳細なレジュメ・配布資料の作成	4	7	5
基礎知識の確認等を踏まえた丁寧な解説・指導	1	3	2
事例・実務に則した授業	3	10	8
講義時間中での演習	—	6	7
テスト・課題に対するコメントのフィードバック	—	—	4
学生による課題報告（発表）や意見発信	1	—	14
双方向な授業の実践	1	5	11
グループワーク、グループディスカッション	—	1	4
パワーポイント等の ICT 機器の使用	3	—	3

コア科目では、「小テスト・中間テストの実施」が最も多く、これは、【設問 1】を踏まえた基礎的・体系的知識の定着を図るために実施されているものと考えられる。また、これに関連して、「宿題・レポートなどの課題」や「要点を得たもしくは詳細なレジュメ・配布資料の作成」との回答が次に多かった。

ベーシック科目では、コア科目と同様に、知識の定着を図るための取組みに加えて、「事例・実務に則した授業」の回答が増えている。

アドバンスト科目においても、ベーシック科目と同様に、「事例・実務に則した授業」の回答が多いが、それだけにとどまらず、「学生による課題報告（発表）や意見発信」や「双方向な講義の実践」も多い。これは、アドバンスト科目では、一般的な講義形式ではなく、演習形式の授業が多いことを意味している。また「グループワーク、グループディスカッション」といった回答もみられ、指導する内容に合わせて、様々な授業形式が実行されている様子が伺える。

② 担当科目について改善・工夫をした方がよい点

担当科目について改善・工夫をした方がよい点に対する回答内容の概要は、次の表のとおりである。

<改善・工夫をした方がよい点に対する回答内容>

	コア科目	ベーシック科目	アドバンスト科目
レジュメ・テキスト・配布資料等の教材の改善	4	8	5
講義（解説）・演習などの時間配分	2	2	—
学生の能力・予備知識・理解度の差への対応	6	1	9

双方向な授業の導入・双方向性を増やす取組み	5	5	7
学生による自発的学習の促進	—	1	4
授業で扱うトピック、質、及び量のバランス	8	6	11
演習問題などの改善	—	4	2
小テストや課題の実施ないしその分量	1	2	4
特になし	1	3	2

コア科目では、「学生の能力・予備知識・理解度の差への対応」、「授業で扱うトピック、質、及び量のバランス」との回答が多かった。コア科目では、その分野の初学者が受講することも多いため、受講する学生の予備知識に差が生じやすい。そのため、様々なレベルの学生が混在する中で、どのように授業を行うかに苦労しているようである。

ベーシック科目では、「レジュメ・テキスト・配布資料等の教材の改善」に悩む回答が多い。また、「授業で扱うトピック、質、及び量のバランス」も多かった。

アドバンスト科目では、コア科目と同様、「学生の能力・予備知識・理解度の差への対応」、「授業で扱うトピック、質、及び量のバランス」との回答が多かった。学部からの進学生は、当然ながら実務の知識が無いので、ある程度予備知識に差が生じることは不可避であり、教員には一層の工夫が求められる。

また、一般的傾向として、コア科目からアドバンスト科目に移行するにつれて「双方向な授業の導入・双方向性を増やす取組み」や「学生による自発的学習の促進」の回答が多くなっている。これは、コア科目からアドバンスト科目に移行するにつれて演習形式の授業が多くなることと合致しているが、この結果は、具体的な演習の実施方法について、様々な模索が行われていることを示している。

(3) 【設問3】に対する回答内容とその分析

【設問3】（この科目を担当するにあたって当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、ご自身の思っていた目標は達成されたと思いますか）に対する回答内容の概要は、以下の表のとおりである。

コア科目では2科目、ベーシック科目では6科目、アドバンスト科目では2科目で、半分程度しかもしくはあまり達成できなかったとの回答があるが、これらは、教員の講義への取組みそれ自体に対するものというよりも、教員が期待する高い目標水準まで達していない学生がいることに対する教員自身の反省を反映したものである。

< 【設問 3】に対する回答内容 >

	コア科目	ベーシック科目	アドバンスト科目
達成できた・ほぼ達成できた	42	39	39
半分程度達成できた・あまり達成できなかった	2	6	2

(4) 教員による担当科目自己評価の特徴と今後への示唆

以上を踏まえ、アカウンティングスクールの教員による担当科目自己評価にみられる講義への取組みの特徴と今後の改善・工夫への取組みの方向性とさらなる課題として、次の諸点が挙げられる。

まず、コア科目に関しては、特に基礎的・体系的知識の習得に力点が置かれており、知識の定着を図るべく、小テスト・中間テストの実施や、宿題・レポートなどの課題の実施とともに、独自のレジュメ・配布資料を作成するといった取組みが行われている。

ベーシック科目では、理論に重点のおかれた科目と、理論を踏まえた実務（実践）例に重点のおかれた科目とがあり、また、その分野の基礎的・体系的な知識の修得に力を入れている科目もあれば、比較的高度な水準の知識・能力の修得に力を入れている科目もある。

このように、どこに重点を置くかが、教員や科目によって多少異なっているが、一般的に、小テスト・中間テストの実施、宿題・レポートの実施、実務例に則した講義や双方向性のある講義などは、実施してよかったとの回答が多い。今後も、科目ごとに様々な取組みが行われるだろう。

アドバンスト科目では、基礎的・体系的な知識の習得はほとんど目標とされていない。そのため、講義内容の定着を促すために実施されることが多い小テストなども、ほとんど実施されていない。

アドバンスト科目では、専門性を高めるために、理論中心の科目であれば高度な水準の知識・能力の修得を目指して、重要トピックの詳細な解説が行われ、また、実務例中心の科目であれば、実践的な能力の修得を目指して、事例・実務を踏まえた授業が行われている。いずれにせよ、ほとんどの場合授業は演習・グループワーク形式で行われており、学生による発表やディスカッションなど、教員と学生との間にとどまらず、学生間のコミュニケーションも重視されている。

ここで視点を変えて、学生による授業評価アンケートを見てみると、【設問 10】（この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか）と【設問 11】（この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか）の値が他の設問と比べて低い値となっている。コア科目とベーシック科目では、知識の習得・定着が重視されており、小テストなどを通じて、復習を促す取組みは盛んに実施されている。今後は、予習を促

し、さらには自発的な学習を促す取組みが期待される。アドバンスト科目では、課題の報告（発表）や双方向への取組みによってこの点を改善することが図られているが、より積極的に、自発的な学習を促す取組みが求められる。

最後に、近年は、コア科目、ベーシック科目、及びアドバンスト科目のすべてにおいて、学生の予備知識・理解度の差が大きいことへの対応が必要となっていることを指摘したい。この問題には2つの側面がある。1つは、理論に関する解説において、理論を理解するための予備知識・前提知識が必ずしも共有されていない、というものである。この問題に関しては、学生に、より入門的な授業から順に履修するよう、シラバスやガイダンスなどで案内を徹底する必要がある。

もう1つは、実務に関する解説において、実務経験のある社会人学生と、実務経験の無い学生とで、実務で使われる用語などについての予備知識・前提知識が必ずしも共有されていない、というものである。アカウンティングスクールという性質上、実務例を紹介する授業を、実務を経験していない学生が履修するのは必然であるため、各授業の担当教員が工夫してフォローすることが求められる。

6. 今後の課題

教員の自己評価アンケートの結果から、コア科目に関しては、基礎的・体系的知識の習得に力点が置かれ、知識の定着を図るべく、小テスト・中間テストの実施、宿題・レポートを課すとともに、独自のレジュメを作成するといった取組みが行われている。学生による授業評価アンケートの【設問 12】（この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか）について、コア科目の評価がベーシック科目とアドバンスト科目の評価に比して低い傾向が見られるが、この点は、上記を踏まえると、やむを得ない部分でもあろうが、授業方法に工夫を図れないか、担当教員に検討を期待したいところである。

理論系の科目と実践（実務）系の科目が含まれるベーシック科目では、基礎的・体系的知識の習得に最も力を入れている講義と、事例・実務を踏まえ講義を行うことに最も力を入れているとする講義がみられる。実施してよかった点においても、事例・実務を踏まえ講義という回答が増えている。また、双方向な講義を実践してよかったとする講義があるとともに、今後、そのような方向に改善・工夫を考えている講義もみられる。

アドバンスト科目では、専門性を高めるために、一定水準の知識・能力の修得、担当科目の詳細な解説を図ることに最も力を入れているとの回答と、事例・実務を踏まえ講義、実践的な能力の修得に最も力を入れたとの回答が多い。そのために、課題などについて、提出するだけにおわらず、これを講義において報告（発表）することを実施する、また、双方向の講義を実践する取組みが多く行われている。

学生による授業評価アンケートでは、【設問 10】（この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか）と【設問 11】（この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか）の値が他の設問に比して低い値となっている。コア科目とベーシック科目では、知識の習得・定着に重きを置き、復習を重視した取組みが行われている傾向にあり、予習、さらには自発的な学習を促す取組みが不十分かもしれない。アドバンスト科目では、課題の報告（発表）や双方向への取組みによってこの点を改善することが図られているかもしれないが、予習・復習、課題、さらに学生の問題意識を喚起し自発的な学習を促す取組みを図っていくことは、1つの課題といえるであろう。

教員による担当科目自己評価ではあるが、最後に、＜改善・工夫をした方がよい点に対する回答内容＞に多くみられた学生の予備知識・理解度の差への対応について言及しておきたい。1つの項目にまとめているが、回答には大きく2つの側面がある。1つは、実践（実務）系の科目において、実務経験のない学生への対応が講義の実施にあたって配慮すべき要素となっている点である。もう1つは、ベーシック科目、アドバンスト科目では、コア科目・ベーシック科目レベルの知識が不足・欠如していると、講義の理解度に影響することから、その対応に苦慮している点である。前者については、そのような対応への改善・

工夫に引き続き取り組んでいくことは不可欠であり、後者については、学生への履修指導、シラバス、講義開始時のガイダンスの改善・充実といったことを図っていくことが必要といえよう。

今般の学生による授業評価アンケート、教員による担当科目自己評価や試験結果を再度吟味することにより、引き続き客観的な自己評価を継続していくことが重要だろう。また、そうした自己評価に加えて、FD活動についても継続して行っていくことが大切だと思われる。

以 上

関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科
自己評価委員会

コンビーナー 玉田 俊平太